



隣のお嬢様一家との
奇妙でドエロな関係

母娘係3代にわたって中出し孕ませ

近所のお屋敷の美人な奥様やお嬢様やその娘さんが
あなたのチ○コの虜に♡
フルカラー70ページ

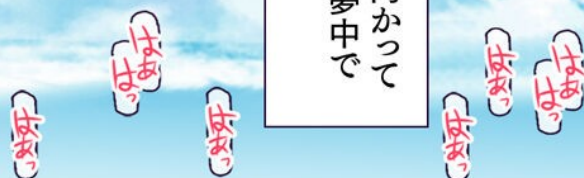
これからお前に語るのは
ワシとある富豪一家の奥様や娘達との
奇妙な関係の話じゃ……

昭和〇〇年
夏

雨上がりの空には
綺麗な虹が架かっていた

ボクはその虹に向かって
土手の上を無我夢中で
走っている

虹のたもとを
見てみたかったんだ



でも……走っても走っても
虹は一向に近づいてこない

わあっ

虹ばかり見ていたせいか
石につまづいて転んでしまった

くっそお
泥だらけに
なっちゃったよ

ボク……大丈夫？



声をかけられ
顔をあげると
一人の女の人が見えた

その女の方は虹のたもとに
立っているように見えた

母娘孫 3代にわたって中出し孕ませ

隣のお嬢様一家との 奇妙でドエロな関係







ボク……お風呂は
こじちですよ

やっぱ
すっげ〜な〜

思わず
そこらへんにあるものを
シロシロと見てしまう

すっげ〜!!

ば〜んた〜ん



と悩んでいると後ろの方で
扉が開く音がした

……でもこれどうやって
お湯出すんだ?

は〜お風呂も
すげ〜な〜

ガキヤ

ボク……使い方よくわからないでしょ
教えてあげるわよ

えっあ……
ありがとう……
ございます

母ちゃんの裸は
見慣れているのに……

この女の人の裸を
見ていると……

下半身がなんだかすごく
もぞもぞする……

あら……

くすくす……



さあ体洗って
あげましょうねえ

は……は……

ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは
ははははは



そして……

オチ○チンが痛いくらいに
大きく硬くなっていた

ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ
ゴシゴシ



ボクは体を洗って
もらっている
間じゅう……

ほら……
だいぶきれいきれいに
なってきたわね♥

この人のおっぱいから
目が離せなかった



こんなに大きく
しちゃって……

……でも……コレ……
旦那様と同じくらい……

いや……ひよっとしたら
それ以上の……



こ……こ……こ……
綺麗にしておきましようね

わい



うっあっんっんっあっ
あっんっうっあっ……

あっあっあっあっあっ

あっあっあっあっあっ

凄い……
どくんどくんって……
脈打っているのがわかる

ああっ……
へん……へんだよ
気持ちいいよおお

あぁおしっこ……
おしっこでちやううう

いっのよ出してっのよ
たくさん出して……

止められないよお

あぁっでちやうううう





あぁっ……
ごめんなから……

おたまた

ふふ……いいの……
これは自然なことなのよ



ああ……でもすごい量……
それにすごく濃くて……

においで……
クラクラする……

はあ はあ はあ はあ はあ はあ



……
こんなに出したのに
まだオチ○チン
大きい……

この……
このオチ○チン
欲しい……

……このオチ○チンの
赤ちゃんが欲しい……

女の本能が……
私のオマ○コが……

私の子宮がこの精子を
欲しがっている

オチ○チン
オチ○チン

……ね……ねえ

ねえ……ボク
もつと……気持ち良
くなりたい……？

う……うん

じゃあ……
これからすることは
絶対に秘密ね♥

はああああ♥

入って来る
入って来るうう

オチ○チン

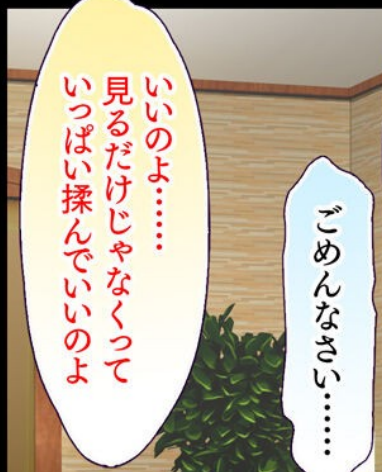




私の膣内に
オチ○チンが
入ってるうう

うれしいわあ
お婆さんのオマ○コで
気持ちよくなってくれて

ああああ何これえ
オチ○チンが
気持ちいいよお



そういえば
さつきはおっぱい
ジロジロ見てたわね

ごめんなさー……

いいのよ……
見るだけじゃなくって
いっぱい揉んでいいのよ



はっんんんん…

せぬっせぬっ
せぬっせぬっ
せぬっせぬっ



ああすごい
柔らかくて
気持ちいい

お婆さんも
おっぱい揉んでもらって
気持ちいいわよ

せぬっ

せぬっ
せぬっ
せぬっ

はあはあ
はあはあ
はあはあ

はあはあ……気持ちいいよお
オチ○チンがすっごい気持ち良くなってきたよお

おばさんのオマ○コの中
あつたかくつてぬるぬるしてて
すっごい気持ちいいよおおお

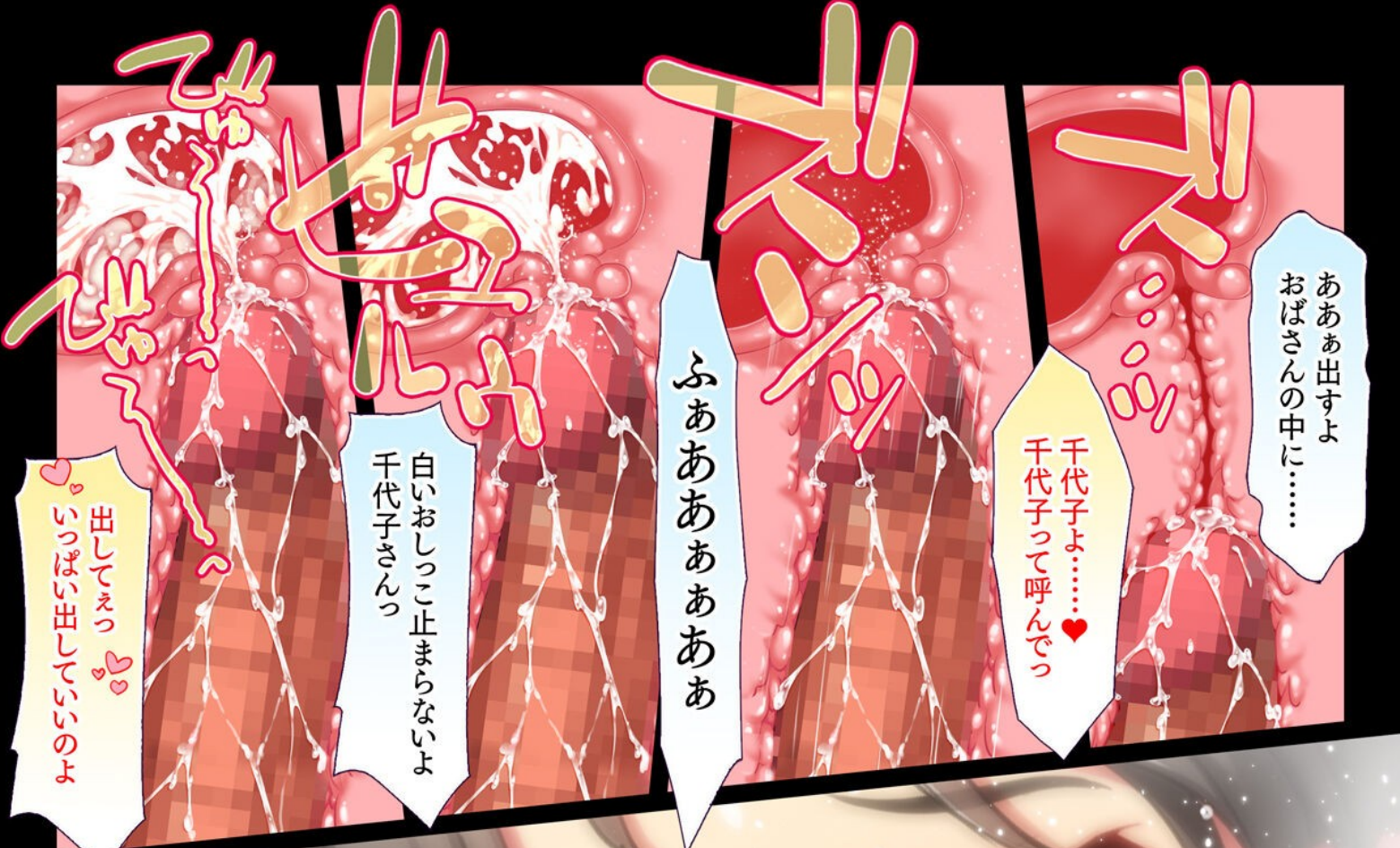
おばさんも気持ちいいわ
ボクのおチ○チンすっごい
すっごい気持ちいいのお

こんなに気持ちよく
なったの初めてえっ

旦那様のモノより
私のオマ○コにしっとり
きちやってるのお

あつまた
さっきの白のおしっこが
出そうになってきたよお

出して……出していいのよ
このまま膣内に出してえ



あああ出すよ
おばさんの中……

千代子よ……
千代子って呼んでっ

ふああああああ

白いおしっこ止まらないよ
千代子さんっ

出してっ
出してっ出してっ出してっ



私の子宮の中
白いおしっこで
いっぱいにしてえ



そしてボクは
日が暮れるまで
白いおしっこを
千代子さんの中に
出し続けた

数ヶ月後
—— 初秋 ——

ボクは友達の家
に遊びに行くため
にいつもの土手
の上を走っていた

あらボク
久しぶりね

はあ
はあ
はあ
はあ
はあ
はあ

突然声をかけられ
足を止め振り向くと……
忘れられない女の人が
立っていた

あつ……千代子さん
久しぶりです

ふふっあのとき以来ね

思い出すとまた
オチ○チンが大きくなって
きてしまう

は……はいっ

実はね私妊娠したのよ

えっそ……それは
おめでとうございませす

ありがとう……

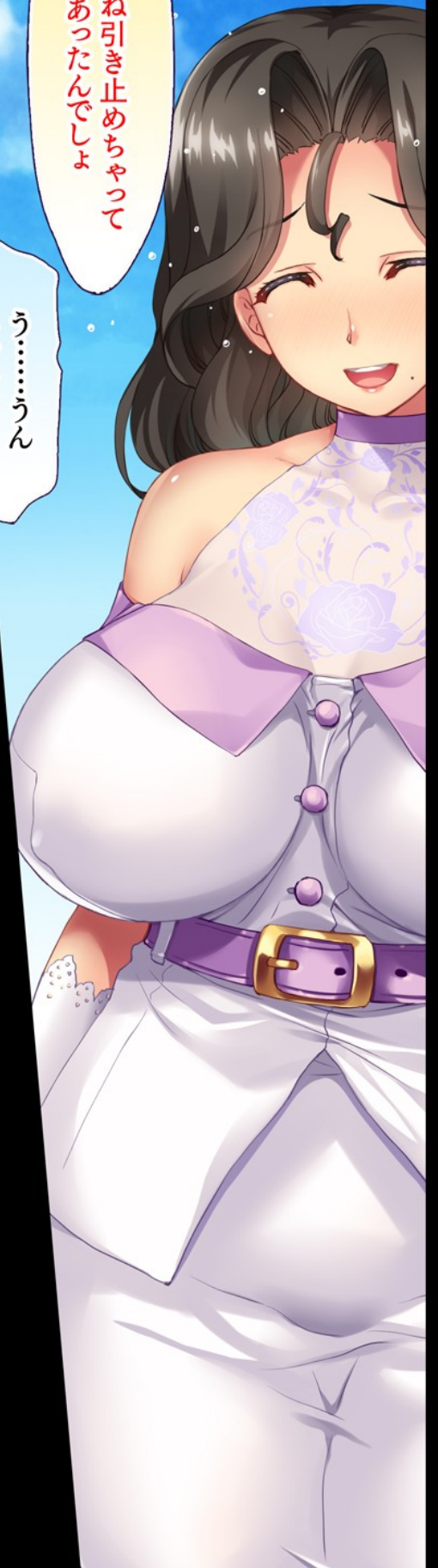
ごめんね引き止めちゃって
用事があったんでしょ

う……うん
じゃあ……

ボクがまた走り出すと
背中からうっすらと
声が聞こえてきた

じゃあねパパ

……はは……？



〇〇年後
——夏——

にわか雨が上がり
空には綺麗な虹が
かかっている

僕はほのかな期待をこめて
この土手の上に立っている

そう……あの日以来
出会えていないその女性に
巡り会える予感がしたんだ

すると仲の良さそうな
母と娘のが歩いてきた

そして——

母親の方は
見覚えがあった

……そう
僕が会いたかった女性
千代子さんだ

あら……久しぶりね
元気だった……？

あれから何年もたっているのに
あまり変わっていない……
むしろ妖艶な魅力が増している



そちらのお子さんは
千代子さんの……

そうよ……ちあ
ちあ……

こんにちはっ
ぱぱ ♡

ぱぱ……?

そういえば
前にも……

ふふっ……
気にしないでいいのよ

この子誰にでもぱぱって
言っちゃうんだから

……そうなんですか?

それよりもボクう
大きくなったわねえ

ああ失礼……
もうボクじゃないわね

そう会話しながら
僕は千代子さんから
目が離せなかった

大きく開いた
胸元からのぞく
白い肌

数年前の記憶を
鮮明に思い出させる

うふふつ……
そっちの方も大きく
成長したのかしら？

いつの間にかチ○コが
ギンギンになっていた

いや……あの……

くさくさ……

おはははは

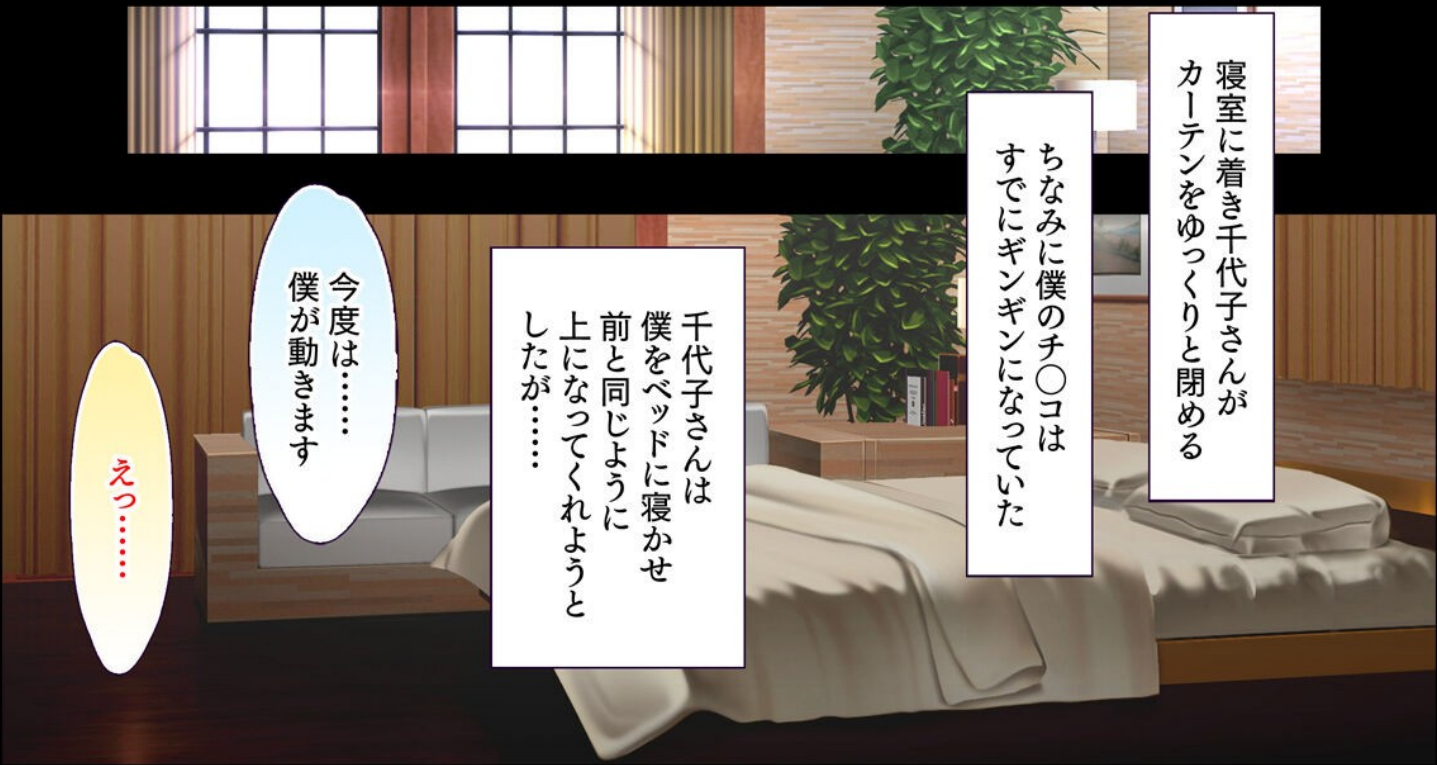
また……気持ちよく
なりたいの……？



また私の家に
いきましよう

ふふっ……いいわよ

あの……その……
は……はい……



寝室に着き千代子さんが
カーテンをゆつくりと閉める

ちなみに僕のチ○コは
すでにギンギンになっていた

千代子さんは
僕をベッドに寝かせ
前と同じように
上になつてくれようと
したが……

今度は……
僕が動きます

えっ……

千代子さんをベッドに寝かせると……

僕はすでにギンギンに
なっているチ○コを
思いっきりマ○コにおち込んだ

ふぁぁぁ

あぁぁぁ

ズズズズ

だめええ凄いいいい

すごいいいい
おくう奥にずんずん
きてるううう



お母様……？

お母様大丈夫……？

別の部屋にいた娘さんが
お母さんの大きな喘ぎ声をきいて
心配して見に来たのだろう

……ああのね……

困る僕を横目に
千代子さんは
焦った様子もなく
優しく微笑んだ

大丈夫よ……咲耶

身体を少し起こしつつも
僕とつながったままで
娘さんと話している

ママとっても
気持ちよかっただけだから
……お部屋に戻ってなさい

しかし娘さんは
もじもじしてて
動く気配がない

もじもじもじ……

娘さんは真っ赤になりながらうなずいている

咲耶……
見たいの？

こく……

くすつ
しょうがない娘ねえ

咲耶……こつちに
いらっしやい……

ねえ……
このままでできるでしょ
オチ○チン硬い
ままだし……

えっ？

咲耶……よく見てね
ママの気持ちいいところ

先に出した精液と千代子さんの
愛液でぐちよぐちよになった
マ○コからは僕のチ○コを出し入れ
するたびにやらしい音が響いた

千代子さんは娘の咲耶に
見せつけるように激しく乱れた



今度はマ○コから抜いたばかりのチ○コを興味津々で見ている

女の本能がそうさせるのか……？
咲耶はなんとも言えない愉悦の表情を浮かべ
おずおずと僕のモノに顔を近づけた



母親と僕の激しいセックスを見ていた娘の咲耶は――



咲耶……彼のオチ○チンをなめなめして綺麗にしてあげたら？

はい……お母様

にこ

咲耶は
おぼつかない手つきで
僕のチ○コに触れてきた

そして先っぽの方を
ゆっくりと舐める

おいちい……

そうそう……
先っぽの方は
敏感だから優しく
丁寧に舐めるのよ

ふわい……お母しやま

咲耶は精液と愛液がたっぷりついた
僕のチ○コを嬉しそうに舐めている

気持ちいいんですか？
うれしいですっ

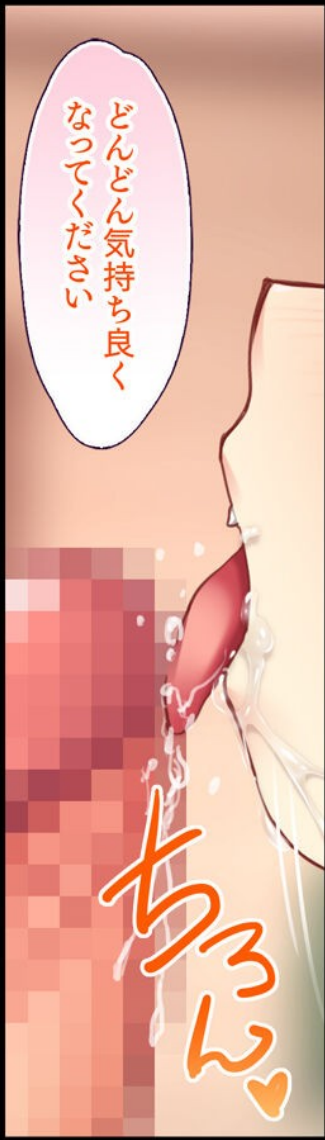
でも
気持ちいいです

はい……
ちよつときこちない
感じですが……

どう……
私の娘の
舌使いは？



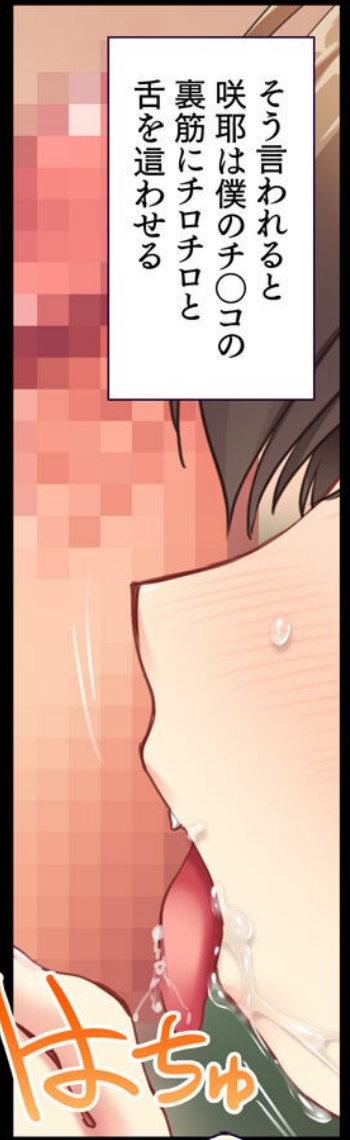
オチ○チンの裏側のところも舐めてあげるといいわよ



どんどん気持ち良くなってください



そんなに舐められたらオチ○チンどんどん気持ち良くなっちゃうよ



そう言われると咲耶は僕のチ○コの裏筋にチロチロと舌を這わせる



ふふ……咲耶……そろそろ啜えてあげなさい

ふわい……

小さな口を一生懸命開けて
僕の手〇コを迎え入れる

そうそう……
頭を上下に動かして……

ろうれすか……
ひもちいいれすか……

ああ……とつても
気持ちいいよ



そう言いながら
頭をなでてやると
嬉しそうに微笑む

もっと気持ち良く
なりたいから
もう少し早く
動いてくれるかな

ふわい♡

ああ……
だいが気持ち
良くなったきた
もういきそうだ

早く動きながらも
舌は休まずチ○コに絡みつぎ
舐めまわしてくる

ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ

ろうぞ……
ほのままイッへ
ふだしゃい

ちゅぽ

僕はそのまま咲耶の
喉の奥に射精した

いくぞつ

ちゅぽ
ちゅぽ
ちゅぽ



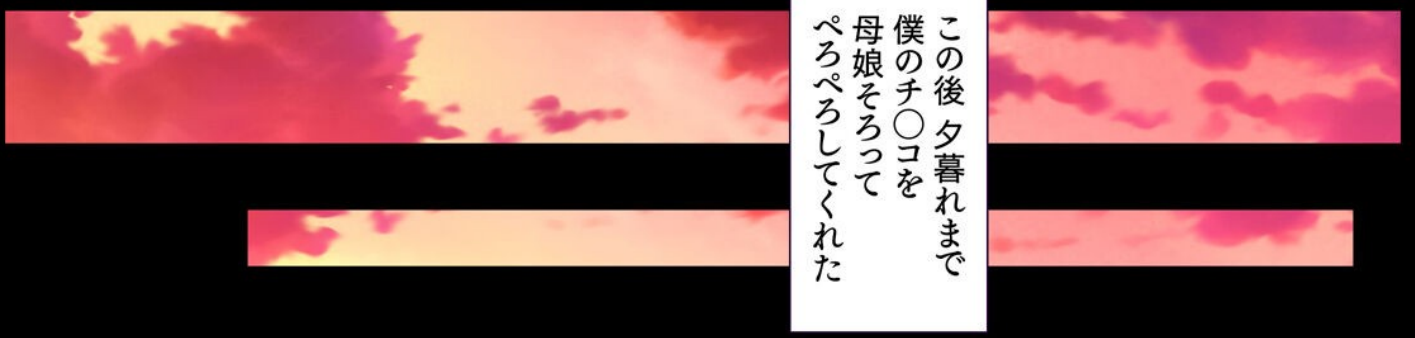
美味しかった？

ごめん……大丈夫？

大丈夫です

ふっふっ

トホトホ



この後夕暮れまで
僕の子〇コを
母娘そろって
ぺろぺろしてくれた



急に後ろから
声をかけられた

ぽぽ

〇〇年後——

びっくりして振り向くと……
そこには見慣れない女の子が立っていた

……？

制服から察するに駅向こうの
お嬢様女子学園に通っているのだろう

誰だかわからず困った顔をしていると
その少女は屈託のない笑顔でこう言った

あなたのオチ○チンを啜えた感触
まだ覚えているわよ♥

それに精子の味もね♪



えっ……

そっそれじゃあ
あの時の……



咲耶ちゃん
大きくなったね

そうっおっぱい
大きくなったでしょう

そういう意味ではなかったのだが
言われてみればそうとうエロい体に
育っている



どう？オチ○チン
ギンギンになっちゃう？

お……
おう……

たしかにギンギンに
なっている





私ねっ……

初めてはこの
オチ○チンって
決めてたの♡



お家
行きましょっ



ああ……
くるう

入ってくるう

私のオマ○コに
オチ○チンが入っ
てくるうううう

あゝあゝ♡

はっ♡

ズズズ♡

ズズズ♡

へん……へんだよお

初めてなのに
気持ちいいよお

初めてなのに……
こんなに感じちゃうなんて
恥ずかしいよお

ズッ
ズッ
ズッ

恥ずかしくなんかはないよ
俺は感じてくれて嬉しい

きっと俺のチ○コと
咲耶のオマ○コ
相性ばつちりなんだよ

あああああ
嬉しいい

シッ
シッ
シッ
シッ
シッ
シッ

あなたのオチ○チン思い出して
ずうずうとオナニーしてたのが
よかつたのかなあ

そうなんだ
俺も嬉しいよ

もにゅ
もにゅ

ぎゅんぎゅん

ズンズン

うんっ スキスキっ

そんなに俺のチ○コが
好きなのか？

らってあんっ
こんな……んんっ
気持ちいいんらもんん

はひ
はひ

好き好き
大大だっい好きい

ちゅ♡
ぽ♡
ぽ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

はひ♡

はひ♡

はひ♡

はひ♡

あ

あ
あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

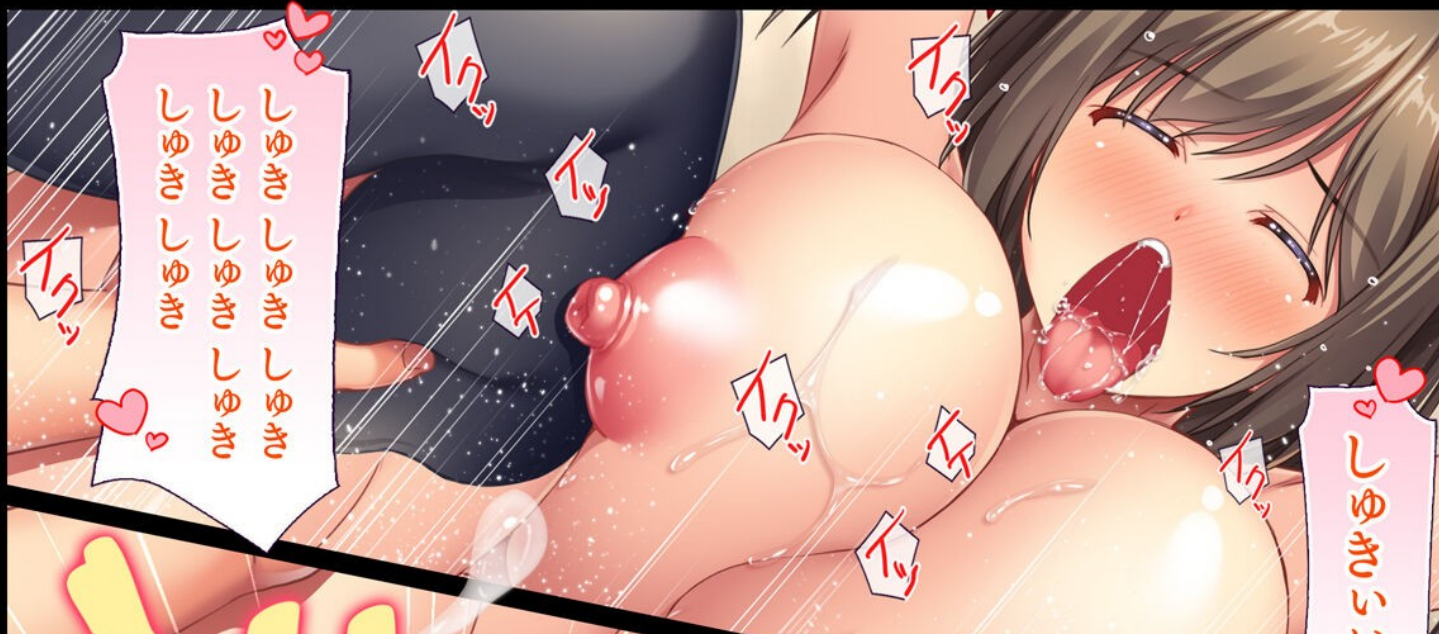
あ

あ

あ

あ

あ



しゅきしゅき
しゅきしゅき
しゅきしゅき
しゅきしゅき

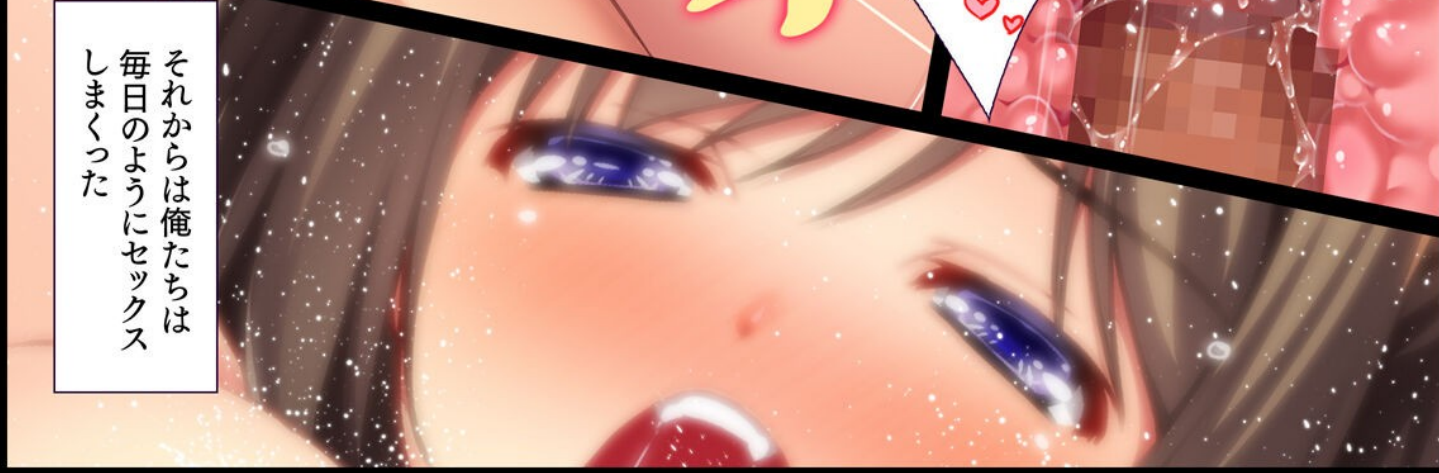
しゅきしゅき
しゅきしゅき
しゅきしゅき



あはれしゅきしゅき
あはれしゅきしゅき
あはれしゅきしゅき



それからは俺たちは
毎日のようにセックス
しまくった



そんな楽しい日々が
続いた……が

突然咲耶と
連絡がとれなくなった

そしてしばらく
会えない日が続き……

ある日……風の噂で
財閥の御曹司と
結婚したと聞いた

○年後

夏

ひさしおひさし
おひさしおひさし
おひさしおひさし
おひさしおひさし
おひさしおひさし

ひさしおひさし

急に声をかけられ
振り向くと咲耶が
笑っていた



色々訊きたいことが
あったはずだったが
急なことだったので
言葉が思うように
出てこない

ま……まあ……

元気してたさ

ひ……ひょろろ……



セックスしよう

どっぴりも……



えっ！

えっだ…だっだ……

だっだ……
結婚したんじゃ……



頭がパニックっている
間に咲耶のお屋敷に
着いていた

いいから
いいから

ん〜まあ……
そ〜なんだけどお〜



私のオマ○コが
喜んじやってるよお

ああああああああ
やつぱりこのオチ○チン
最高おおおおおお



あ

は
あ
あ
あ

気持ちいい
気持ちいいよおおお

こんなことして
いいのかなあ……

との思いとは裏腹に
チ○コはいつもより
ギンギンになっている

ねえ私のオマ○コ
気持ちいい？

ああもちろん最高だよ

うれしい♡

嬉しくって
オマ○コキョクキョク
しちゃうう

おっぱい

おっぱい♡



俺の子種で
孕みたいんだろ
もつといっぱい
射精してやるよ

いつちやつてるからあ

ああだめえ
いつてる

ちよ……ちよと休ませてえ

い……いきまくって……んっ
おかしくなっちゃうよおお

はひん

んま

たぶん

カエッ
カエッ
カエッ

ビッ

ビガッ

ビッ

せりっ

せりっ

せりっ

せりっ

せりっ
せりっ

せりっ
せりっ



らめええオマ○コお
オマ○コイきっぱなしに
なっひやううう

気持ちよすぎて
おかしくなっちゃう
よおお

また出すぞっ
咲耶のマ○コの中
俺の精子でいっぱい
してやるよ

しいしいしい
しいしいしい
しいしいしい

オマ○コいっぱいの
しあわせええええ

俺の精子を子宮に
ぱんぱんにためた咲耶は
お腹をさすりながら
幸せそうに帰って行った

〇〇年後
— 夏 —

空を見上げると
大きな虹がかかっていた

久しぶりに
虹を見たなあ

仲の良さそうな
母と娘の姿が見える

と呟きつつ
視線を下ろすと……

……ん？前にも
こんなことが……





あらー！ひさしぶりー

ん？ああつ咲耶か

ひさしぶりだなあ

大きくなったなあー
お母さんの千代子さんに
そっくりだよ

そちらは娘さん？

娘さんも昔の
咲耶にそっくりだね

それにしても
咲耶は本当に
お母さんに似て……

大人の色香を備えた
ドエロい身体に成長
したなあ

たぶん たぶん

ぶるん ぶるん

娘さんも
昔の咲耶にそっくりで
年の割にはエッチい
身体をしている

くすつ……年をとっても
あいかわらず
元気なおち○チンね

おま○こ

私のオマ○コも……
濡れてきちゃう

ねえ……久しぶりに
あなたのオチ○チンが
欲しくなってきた

久しぶりの
このオチ○チンんん

やっぱりこのオチ○チン
最高うう大好きいいい

大好きなオチ○チンが
私のオマ○コに入ってるの
おしあわせえええ

ズクズクズクズク



あふん あふん

気持ち良くて
しあわせすぎてえ
オチ○チン入れただけで
もうイっちゃいそうう



いいいいいいいい
気持ちいいのおお

俺も凄い気持ちいい

……が
少し気になることが……

ところで咲耶……
さつきからずくと
娘さんが見ているん
だけど……

娘の『唯』よ
私に似て可愛いでしょ

ほら、あんなに可愛くて

唯ですよろしく
お願いします……

いや……こんな状態で
あんなに可愛くても

いいのよ気にしないで

だって見たら
言うんだもの
昔の私と同じね

はあ、はあ、はあ、はあ、はあ、はあ

興味深々なのよ……

……いいなら
いいんだが……

だからもつとお
もつとオチ○チン
動かしてえ

はいよ



俺はマ○コの奥まで
チ○コをねじ込んでやる

はうわあああああ

おくうううううう
奥にきちえりゅうう

がつんがつん
当ってりゅううう

しゃん



そして下からおっぱいを
荒々しく揉みまくる

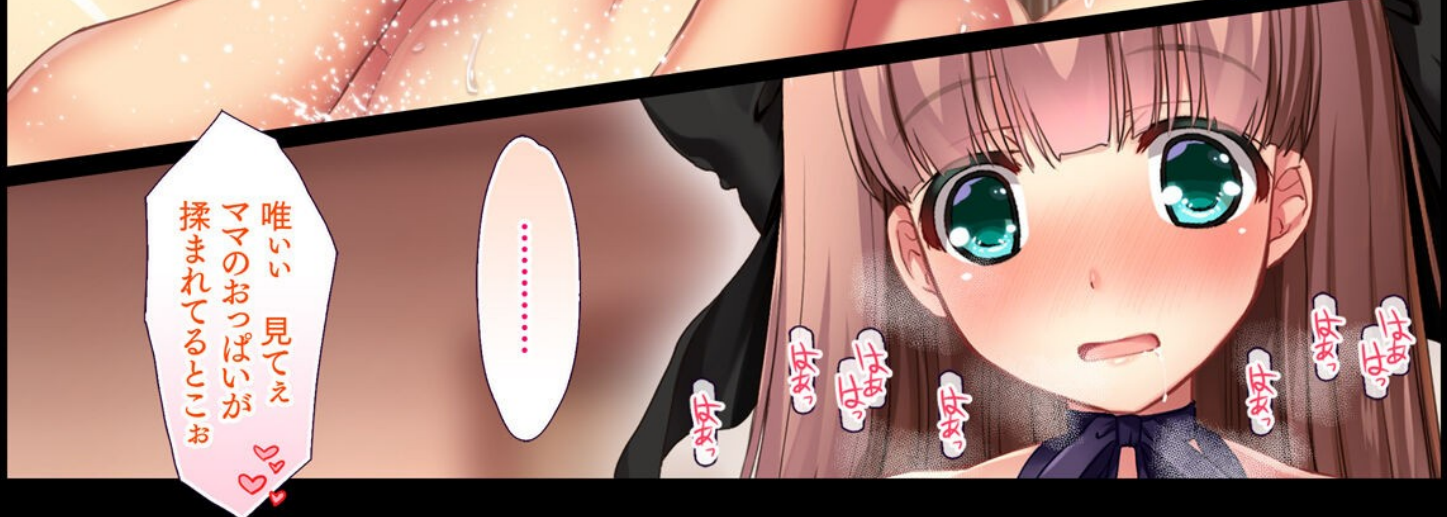
ひぎいんごんごん
気持ちいいいんごん

はひい

はひい

はひい

ぶい



唯い見えてえ
ママのおっぱいが
揉まれてるとこお

.....

はあ はあ はあ はあ

唯 見て見て
ママのオマ○コにオチ○チンが
入っているよ……

ママおっぱい揉まれて
オマ○コにオチ○チン
入れられて気持ち良くな
なっちゃってるのお

気持ち良くなってママのオマ○コ
濡れまくってぐちよぐちよに
なっちゃってるのお

すっごい気持ちいいのよおお

おっぱい しゃぶしゃぶ



咲耶は仰向けに
寝そべると唯を
自身の上に乗せた

後ろから見ると
ふたりのマ○コが重なって
かなりいい具合にエロい



さあ唯……
自分でおねだりしなさい

唯の……オマ○コに
お……オチ○チン
を入れて……ください

俺は……
薄ピンク色の唯のマ○コに
チ○コをあてがう……

そしてゆつくりと
ゆつくりと挿入していく

ひぐううつ

大丈夫？痛くない？

うん……大丈夫……
だから……

そのまま……オチ○チン
唯の……オマ○コに……
入れてください

んっ♡

せせ

せせ

んっ♡

んっ♡

ずぶずぶ

んっ♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡
び

ブルブル

んっ♡
んっ♡

んっ♡

んっ♡
んっ♡

先の母親との行為を
見ていたせいか
唯のマ○コはかなり
濡れている

……が
俺のチ○コを
収めるには
かなり小さい

それでもこの
キツキツのマ○コに
ゆつくりとチ○コを
動かしていると……

徐々に唯の喘ぎ声
聞こえてきた

唯気持ちいいの？

オマ○コが……
キyunキyunしてるの

……痛いけど気持ちいいの

もつと……もつと
オチ○チン欲しいの

俺は腰の動きを
加速させた

それなら……



ふわあああ オマ○コお
オマ○コがおかしいのお

オマ○コからくる……
なんかきもちやうよお

いいのよ……
それがイクってことよ

ああ……イク……イクっ
いつちやうよおおおおお

はは

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

お

ふふ……
初いきね可愛い♡

ねえ……
オチ○チンまだ満足
してないでしょ♡

私のオマ○コも使って♡

さつきまでえ……ああ
娘のオマ○コに入っていた
オチ○チンが……♡

私の……♡
私のオマ○コに
入ってきたあ

ああああああああ
オチ○チン気持ちいい♡

オマ○コキユンキユン
しちゃうのお♡

ビク
ビク
ビク

ズニユ

ズアッ

ズキ





あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ

あ
あ

だつてえ
大好きなオチ○チンが
私のオマ○コに
入ってるんだもの

俺もお前のマ○コ
大好きだぞ

しゃほ

動いてえ
もつと激しく
動いてえ

しゃほ
しゃほ

そんなこと言われたら
オマ○コ嬉しすぎて
もうぐちよぐちよになっちゃう

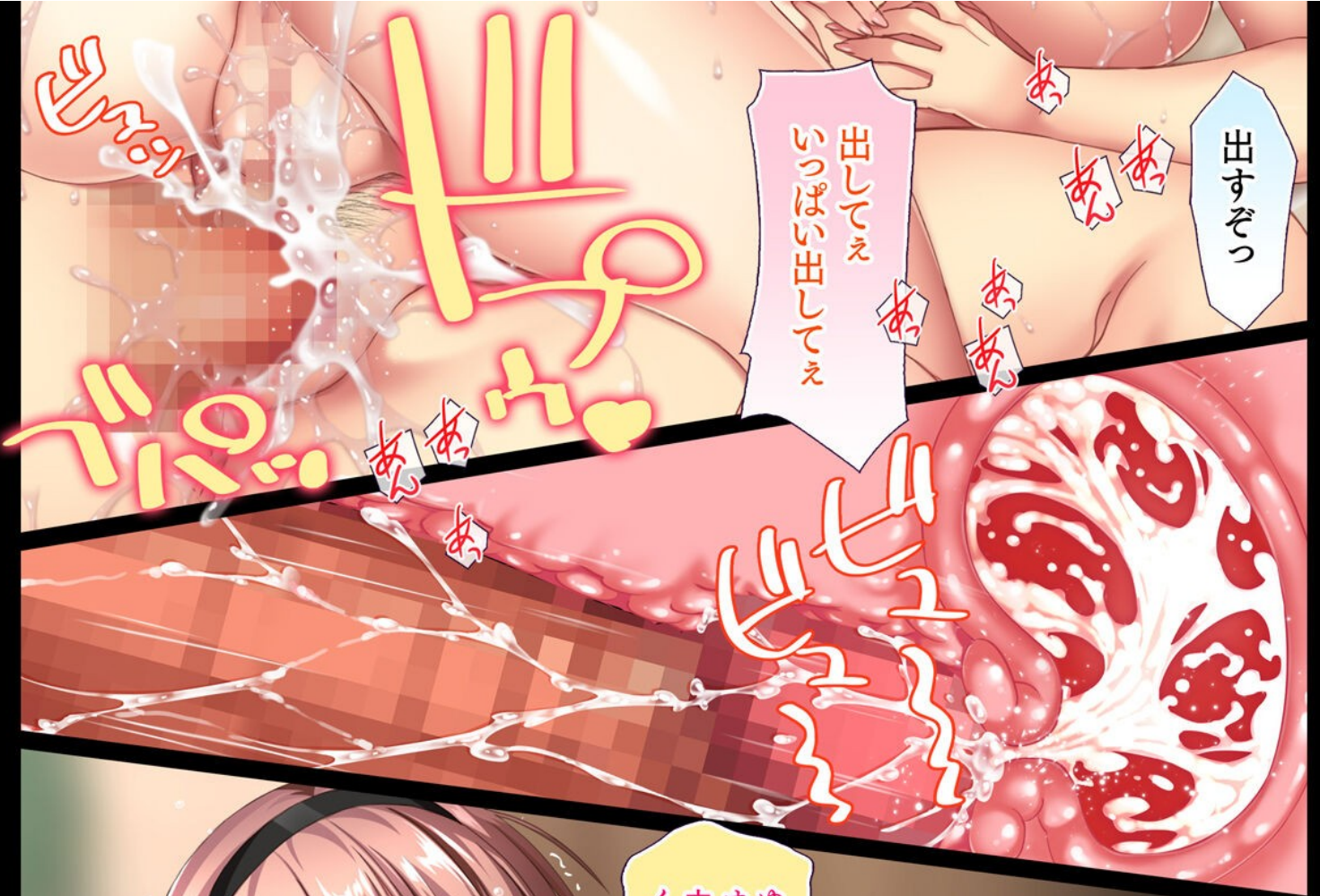


もつと激しくうう
私のオマ○コめちやくちや
にしてえ

いっ
気持ちいい

しゃほ

しゃほ



出してえ
いっぱい出してえ

出すぞっ



ゆい……唯の
オマ○コにも……
中出し……して
ください



俺は
請われるままに
唯にも
中出しする



そしてその後も
ふたりのマ○コに
溢れるほどたっぷり
中出ししてやった……

あれから数年――

たまに咲耶と唯に会っては
セックスしていた

そして今日も
あのお屋敷に行く

こんにちは

今日はいいわよまた今度ね
唯といっぱいセックスしてあげて♡

咲耶も
久しぶりにするか？

あらこんにちはは
今日も唯とセックスしに
きたの？

ねえねえ早く部屋に行つて
エッチなことしよっ

唯はエッチだなあ

むり私がエッチになるのは
あなただけなんだからねっ

しかし気付くと
こいつも成長したな

チ○コがギンギンに
なってきた

よしっ
じゃあそろそろ
セックスしようか

うんっ♪

よしっじゃあ
スパートいくぞっ

きてきてえ 私のオマ○コ
犯しまくつてえええ

私をめちゃくちゃにしてえ

せうせう
せうせう

せうせう
せうせう

せうせう

せうせう

せうせう

オマ○コ

そんな俺を見た
唯は笑顔で……

だからねっ
今日はいっぱい
中出ししてっ
いっぱいいっぱい
中出ししてっ♥

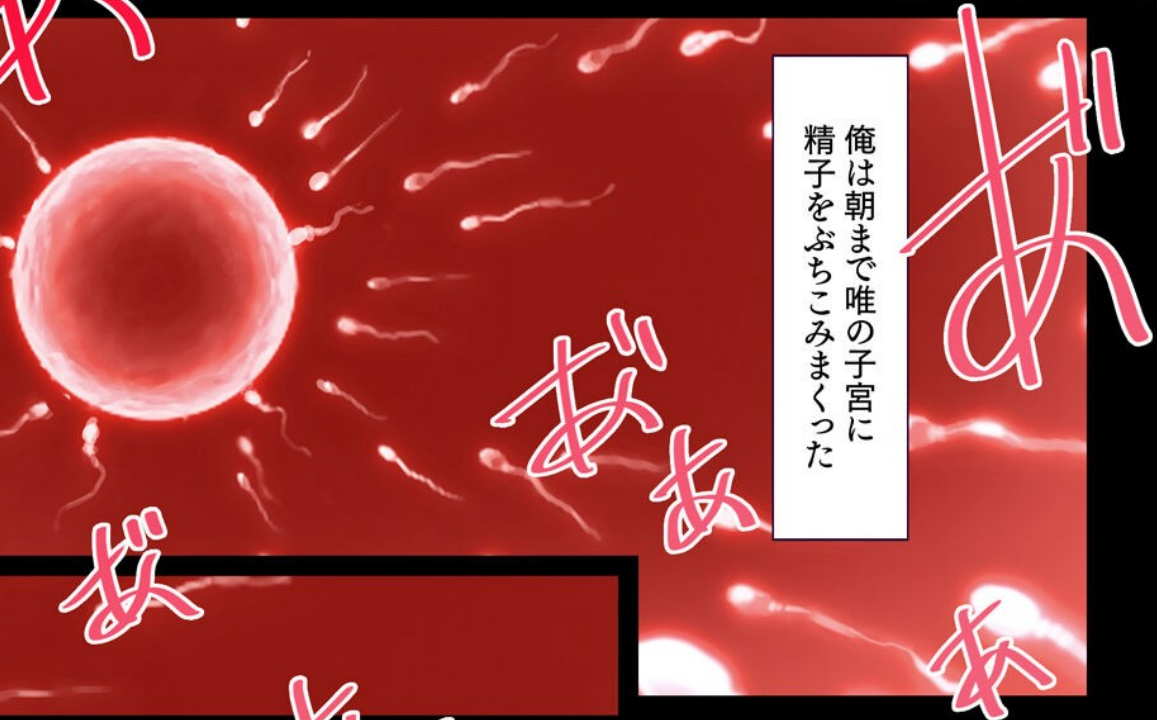
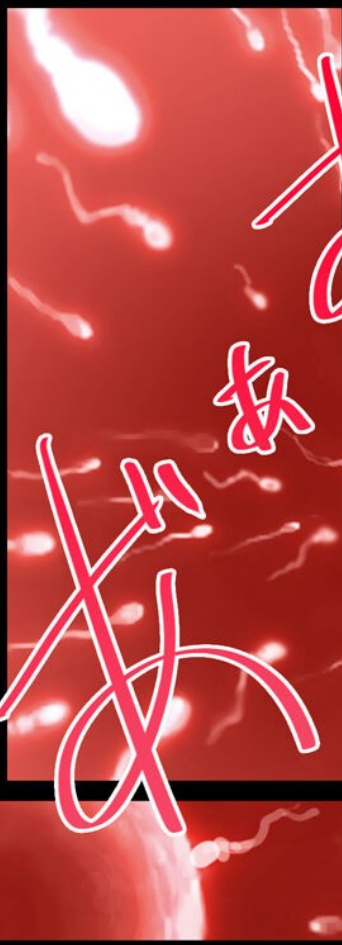


よしわかった

あなたの精子で
私を孕ませてっ

あなたの赤ちゃん
欲しいのお

俺は唯を激しく犯しまくった
そして唯は乱れに乱れまくった



俺は朝まで唯の子宮に
精子をおちこみまくった

ああ



——そり——



……でだ

……その人が
お前のお母さんという
話なんだが……

聞いとるか？

聞いとらんな……

……ん？



だっておじいちゃんの
オチ○チンおいしいんだもん

ちやほん

ふはっ♡



そんなにワシの
オチ○チンが好きか？

おじいちゃん
きもちいい？

うんっ
だいしゅき

ああ気持ちいいぞ

あゝあゝあゝあゝ



萌はオチ○チン舐めるの
上手になったな

うれい

ふふふふふふふふ
ぷるぷるしゅるね

はむっ
びゅっ
びゅっ

